

文理科学科通信

京都府立福知山高等学校

特別講義 「文化人類学」を体験



教わりました。

伝統的リーダーが統治する共同体の**伝統社会**、現在の日本のように政府が統治・再分配し、市場経済をもつ**国民国家**、そしてその中間の状態の**中間系**のそれぞれの利点と欠点（失敗）を話されました。そして、私たちが最良であると思っている国民国家も、制度が整っていても上手く運営（大間が動かす）されているかが重要で、現実は何が起きているのか（大間がどの様に動かしているのか）を検証することが必要であると教わりました。そして、失敗を減らす（費用を減らす）研究こそ文化人類学であると教わりました。講義を通して合田先生が話されたことは、**自分ももっている価値観だけで物事を判断してはいけない。自分と異なる文化をもった人達と関わり合うことで、自分が当たり前と思っていることをもう一度見つめ直すことが大切である。そうすることで、自分の身のまわりの問題を発見することができ、そしてその問題を解決する能力を身につけることができるのである。**」ということでした。

合田先生は**東南アジアの民族文化研究**の専門家で、少数民族の村に入り、共に生活する中で現地の言葉を学び、その民族の生活習慣を観察して研究されています。文化人類学とは伝統社会で行われている生活文化を研究することで、現在、及び将来の人類のあるべき姿を考える学問であること

生徒の声

合田先生の講義を聞いて、伝統社会にも、国民国家にもたくさん問題があることが分かりました。当然、中間系にも問題があり、それらの問題を減らすことは難しいことだと思いました。

最後に合田先生が言われたように、**私たちが当たり前だと思っていることにも、実は当たり前ではないこともある。**」という事に気づく事が大切であると感じました。

成和中学校出身

日新中学校出身

進学説明会

十一月十七日（土）に、福知山高校「進学説明会」を実施しました。昨年度に比べて四十名以上も多い百二十二名の中学三年生の参加がありました。入試のシステムや、昨年度の適性問題の解説などを行いました。



二和中学校出身

合田先生の講義を受けて、自分たちの生活における価値観が、当たり前とは限らないという事実を初めて意識させられたような気がします。今の日本とは異なる東南アジアの国の伝統社会において起きている現象を調べて、日本に起きている諸問題を解決していく学問「文化人類学」があることも初めて知りとても驚きました。

世界には色々な文化や思想があり、そこで起きている政治的な失敗、市場の失敗、そしてそれらの複合的な失敗が数多くあることを教わりました。この講義を受けて、自分の世界の文化を見る目がガラッと変わったような気がします。